

# ちよつといし話

## ～ ためらい ～

暑き夜長で寝苦しい毎日をお過ごしのことと思います。したがって当然、思考力の低下は否めませんが、私共は生活している過程に於いて色々決断を下さなければならぬ事に遭遇します。時に於いて、私共は躊躇（ちゅうちょ）せざるをえない事がおおくあります。未経験なるが故に止むをえ無い事もあるでしょう。

しかし経験している事でも結果的に思わしくなく、後悔する事がおおいのも事実です。起こりうる未来にしばしば判断が狂った経験があるからこそ必然的に躊躇する事になるのでしょう。昔から「転ばぬ先の杖」とか申します、事が良かったか悪かったかは運否天賦、八卦八段、嘘九段、なんて安心出来ません。

経営者にとって現実から未来を見据える事の善し悪しで社運を決められてしまいます。それは金融機関や自動車産業を見れば判ると思います。幸を奏し成功を納めた方の多くは何かを信心してみえるし、方々の座右の銘には深い意味があると思います。一瞬の判断が幸を奏する事もありますし、熟慮しても幸ならず、と言う事もあり、娑婆の世界は色々悲喜交々です。

日頃の信仰によって大難は小難、小難は無難に過ごせるのも、お陰です。信仰に**ためらい**は禁物です。何故ならば、冥途への旅立ちに失敗は許されないからです。**無情和讃**に、「如何なる宝があるとて死んで身に附く物はなし、身に附く物とて南無阿弥陀仏、死出の旅路に出る時は、晒木綿の単衣にて、さんや袋を首にかけ、六文銭に数珠一つ。」とあります。 南無阿弥陀仏、阿弥陀仏

善入院油掛地藏尊